編集後記：マザコンという言葉があります．「マザーコンプレックス」の略でしょうか．マザコン男は女性に人気がないそうです．親孝行もマザコンに一括りにされてないか，という危惧もありますが，まあしかし，いつも横目でちらちらと母親を気にしてそれで行動が決まるような男であれば，確かに見目は良くないでしょう．

突然話題が変わって申し訳ありませんが，最近，ある関係でいわゆるポスドク問題についてよく考える機会がありました．そのとき思ったのですが，ポスドク問題の根源には，現代の日本の社会や経済や政治の問題にも共通する，ある特徴があるような気がします．それは，「外国ではこういう制度だから日本でも導入すべきだ」と言った議論がなされる点です．世の中，様々な改革案が提示されている訳ですが，その改革案の正当性を突き詰めていくと「外国でこうだからだ」以上のものを持っていないものが多いような気がします．例えば，ポスドク問題の根底には，「ポスドク一万人計画」がある訳です．この施策が取られた理由として色々な説明がなされますが，それでも結局，「外国ではこうだから日本でも」という発想が主だったのではないでしょうか？そういう発想は，キャッチアップの段階にあった明治から昭和に掛けては有効だったかもしれませんが，明治以降の高度の経済成長が終焉した平成の世にはもう効力を失いつつあるのではないでしょうか？それなのに「外国ではこうだから日本も」という発想に基づいた制度改革が行われ，それでアレルギー反応を起こしてしまっているのが現状ではないでしょうか？

「外国」といってもそれはほとんどの場合，欧米です．イギリスだったり，フランスだったり，数年前はフィンランドがもてはやされていましたが，大多数はアメリカのようです．アメリカも素敵な国だと思いますが，アメリカの採用している制度が日本に最適とは限りません．文章にすれば当然すぎて恥ずかしいくらいですが，実際の行動はそうとは思えない事が多いようです．アメリカと日本の大学を取り巻く環境はあまりに違います．アメリカでポスドクが毎年どれだけ生まれていようが，そこだけ模倣すればおかしくなるのは当然な気がするのですが．大学に限りません．あらゆる分野に見られる事だと思います．

このような現代日本の特徴はなんと言えば良いのでしょうか．いつも横目でちらちらとアメリカを気にしてそれで行動が決まってくる．「アメコン」とでも呼ぶべきでしょうか．表現はともかく，マザコンに似て，あまり見目のよいものではないようです．

（高谷康太郎）